

CLUB-FOREST がリニューアル

今年度から CLUB-FOREST の開催形式が変わります。これまでは事前にテーマを決め、主催側である MELON や RNECS が交替で話題を提供し、参加者と意見交換を行うというのが基本スタイルでした。今年度はより参加しやすい「環境サロン」を目指し、参加者との会話に軸を置きます。

今年度の CLUB-FOREST は MELON の Web-Site 内のページ「Column ちょこっとエコ」と連動して開催します。事務局スタッフが毎月交代で執筆している、環境初心者向けのコラムです。開催月の執筆者が参加しますので、コラムに書ききれなかったさまざまな話題から話が広がり、よ

り良い情報交換の場となるよう、また交流の場となるよう開催していきたいと考えています。

会場は MELON 事務局内のサロンスペースです。事務局では新聞に掲載された環境情報を掲示している他、図書の貸し出しも行っておりますので、学習の場としてもご活用ください。

昨年度好評だったもの作り企画など、参加型の催しは「拡大企画」として年3回ほど開催する予定です。詳細は決まり次第ホームページでお知らせします。



サンゴ銃後（その2）

うことが、自分自身の迷いや希望がいつでも「自然」の中であったことを感じることができます。

最近、自分の国の繁栄を守るためにでしようが、温暖化を、石油などの使いすぎに原因があることをあれほどかたくなに認めようとしなかった大統領の演説の内容が取りざたされているのですが、その間にもツバルをはじめ南の島はそれ自体を危うくし始めているのです。私たちの住んでいる日本では、『都会』が自分たちを守るためにカラダをよせあえと、驚くほど、「小サナマド」から「大キナコエ」を出そうとしています。「南の島の恋の歌」を自分の中に聞くことは、そういう大キナコエのいかがわしさを感じることにつながり、本当の環境を自分の中に感じるようになるのかもしれない。

科学技術が人間の「外側にある自然」について調べたり、作りかえたりするのであれば、芸術は「自分の中にある自然」を感じ、表現することになるかもしれません。みやぎに生まれ育った私なら、私なりの「自然」が私のカラダの中にあり、文章を書いたり読んだりするときでさえ、その「自然」が空気のように…いや、昔の人がいった「エーテル」の方がふさわしいかもしれませんが、目に見えない形で私たちの日常の周りにあるのです。沖縄のことに思いをはせるなら、その南の島の自然が、そのひとにとってなくてはならない「存在」であることを感じとってみることも必要かもしれません。

少し大人になった読者のみなさんは「南の島の恋の歌」（文・絵・訳 Cocco, 河出書房 2004年8月）を声を出して読んでみましょう。もちろん、「あの日、海辺で語り合ったことを思い出す」方も大歓迎です。自分の中に人を愛するとい



仙台で広げるプロスポーツネットワーク

3つのプロスポーツが本拠地としている仙台は、それぞれに官民一体となった支援組織が存在する、日本唯一の街です。

各支援組織がもっている知識、機能、情報、事業を連携させ、仙台のプロスポーツを日本全国に発信すること、さらに地域に密着して発展していくことを目的に、仙台市の主導により4月26日に「仙台プロスポーツネット」が設立されました。

MELONも環境活動のPRと普及啓発のためにメンバーに参加しています。

仙台での取り組みが全国に波及し、社会を変えるきっかけとなれば幸いです。今後の3チームの環境への取り組みにご注目ください。

- 各球団の支援組織
- ◆ベガルタ仙台◆
 - ベガルタ仙台ホームタウン協議会
 - ◆楽天イーグルス◆
 - 楽天イーグルス・マイチーム協議会
 - ◆仙台89ERS◆
 - 仙台89ERSとともにまちづくりをすすめる会「イエローブスターズ」



仙台プロスポーツネット設立総会



MELON20周年をめざせ！

50人リレートーク



第16回目の執筆者
松川清子さん
(野蒜築港ファンクラブ
事務局)

野蒜築港は、明治政府の殖産興業・華土族授産政策の下に、東北開発の最重要拠点として着手された日本最初の近代港湾建設事業です。明治11(1878)年、北上運河の開削と石井閘門(石巻市)の築造から始まり、15年10月には運用が開始されますが、17年9月の台風被害を契機に、複合的な要因から事業は中途放棄されました。

着工から120年後の1998年、社会資本の整備に関連の深い土木学会が「野蒜築港120年委員会」を組織し、継続的に研究行事を開催するようになって、地域での認識度や興味は少し深まってきました。実は野蒜築港には明確な資料がありません。お馴染みの「嵐に消えた幻の港」というドラマティックなフレーズも、

時代を遡るほど怪しくなっていくのです。まずは一次資料からと、築港期の新聞や県庁・内務省文書の収集整理を手伝ううちに自宅には資料が重なり、やがて同好者が集って、謎解きを楽しみ遺産の保護や活用を考える「野蒜築港ファンクラブ」を結成していました。そして今、私達は、築港期に造成された市街地跡の対岸にある「野蒜築港資料室」の運営を東松島市教育委員会から委託されて、県内外から多様な来館者を迎えています。

失敗は葬られがち、土木事業は環境の観点でも問題視されがちですが、明治の黎明から急速に進む日本の近代化を支えるため、挑戦と失敗を繰り返しながら真摯に社会資本整備に取り組んでいった有名無名の人々の労苦と足跡を学んで、長期的な展望で未来を構想する、そんなヒントを見つけていただける空間にできればと考えています。

次回執筆者紹介

辺見清二さん(NPO法人 北上川流域連携交流会理事)
北上川流域連携交流会の役員として、岩手・宮城両県の川辺の地域を結ぶ活動に活躍されています。
野蒜築港においても頼もしい先達で、現在、石井閘門そばの北上川・運河交流館に勤務されている「水辺の案内人」です。

